
『歌い継ぐ奄美の島唄』の完成を喜ぶ

鹿児島大学法文学部 梁川英俊

鹿児島県が2011年から3年間に渡って進めてきた「奄美島唄保存伝承事業」の成果として、2014年3月、CD集『歌い継ぐ奄美の島唄』が完成した。CDにして29枚、収録された歌は482曲(うち168曲がこの事業のための新録音)、唄者の数は287人というから壮観である。奄美の民謡と言えば、島唄の他に八月踊り唄のような行事唄があるが、この事業では収集対象を三味線が伴奏するいわゆる島唄に限り、八月踊りや諸鈍シバヤ、夏目踊りや十五夜踊りなど各島の代表的な行事に関しては、付録のDVDに映像を収録している。CD集は、大島のみが北部と南部に各一卷、喜界島、徳之島、沖永良部島、

与論島に各一卷が充てられ、各巻に曲目解説と歌詞、さらには唄者のプロフィールなどを掲載した解説書が付くという大変に行き届いたものである。

実はこの事業は、島嶼研とも少なからぬ縁がある。数年前に島嶼研では、奄美群島の各家庭に残っている(はずの)島唄が録音されたオープンリールやカセットテープを集めようと計画したことがある。再生装置の寿命が尽きてテープ類が廃棄処分になる前に、各島の歌の記録を残したいと考えてのことであったが、収集の困難さに加えて著作権やプライバシーの問題もあり、計画はほとんど具体化されぬまま自然

消滅してしまった。

その過程で親身に相談に乗って下さったのが、鹿児島純心女子短大元教授で島唄研究家の小川学夫氏である。小川氏はその後この保存伝承事業の実行委員会のメンバーとなり、推進役の一人として事業に携わってこられた。その間、幾度かお会いして話を伺う機会があったが、保存事業の中では島嶼研が計画していた過去のテープの発掘もぜひやりたいとおっしゃっていた。

嬉しいことに、完成したCD集には、かなりの数のオープンリールやカセットからの録音が含まれている。なかでも数が多いのは喜界島だが、過去の歌の実態が分かりにくい地域であっただけに、これは大変にありがたい。CD集にはまた、親子ラジオやケーブルテレビ、小川氏自身の個人的な録音から採られた歌もある。

その他の録音も大変に充実していて、なかでも大島の森チエさんや、沖永良部島の撰ヨ子さんから高齢の唄者の元気な声が聴けるのは嬉しい。従来、大島に片寄りがちであった奄美民謡の録音だが、このように全島の民謡に容易にアクセスできるようになった便利さは計り知れない。島唄にはセントラル楽器を中心にすでに商業録音も数多くあるが、多様な音源を元に歌の集成を完成した意義は大きく、その価値はおそらく十年後二十年後に再認識されるに相違ない。

なお、この『歌い継ぐ奄美の島唄』は、奄美群島外では県立図書館等のわずかな施設にしか配架されない貴重な資料とのことである。幸い小川氏のご厚意により、私の研究室にも一セットいただいた。閲覧、貸し出しも行っているので、希望する方は申し出ていただきたい。